静脈石を伴った頬部血管腫の1例

本田 光徳・田中 俊彦・阪尾 信義
須川 亮

A case of hemangioma of the left cheek with phlebolithiasis.

Mitsunori HONDA・Tosihiko TANAKA・Nobuyosi SAKAO

Akira SUGAWA

I 緒 言

静脈石を伴う顔面および口腔内に発現をみた血管腫は、最近報告がつぎつぎになされている¹⁾²⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾¹⁰⁾。

私共も静脈石を伴った血管腫の症例に遭遇し、摘出を行なったのでその概要について報告する。

II 症 例

患者：■■■■ 女性 19 才 会社員

初診：昭和 45 年 7 月 ■■■ 日

主訴：左側口腔内頬部の腫脹および内出血。

家族歴および既往歴：特記すべき事項なし。

現病歴：約 6 カ月前写真撮影したところ、左頬部の腫脹に気付いたが放置、6 月頃より右肩凝りを訴え、内科医受診、左口腔内の腫脹を指摘され、さらに腫脹部の試験穿刺をされた。以後時々内出血があるため当科外来へ紹介された。

現症：体格栄養中等度、顔貌は左側が多少腫脹している感を思わせる程度で、同部皮膚の色調に変化なく、その他異常はない。

口腔内所見：歯牙齲蝕、歯列不正はなく、右側下顎第 1 大臼歯に金属冠があるのみである。

左頬部の耳下腺開口部下部にうづら卵大の膨隆を認め、触診による硬度は弾力性軟で、圧痛はないが、腫瘍の下部に多少暗紫色の着色がみられる以外に著変なく、また炎症所見は認められない。所属リンパ節の圧痛腫脹もない（写真 1）。

臨床診断：頬部血管腫

処置および経過：7 月 ■■■ 日、局麻の下に腫瘍のやや上縁に約 4cm の横切開を加え、頬粘膜を徐々に鈍的に剥離し、露出した腫瘍中に蛇行した暗赤色の血管がみら

れたので、腫瘍の遠心および近心部にて結紮を行ない、ついで腫瘍組織と周囲組織を剥離、容易に摘出し得た。

術後 3 日間は開口不能約 1.5cm であったが、徐々に回復し、創部の出血もなく、6 日目で全抜糸を行なった。その後経過良好で現在まで異常を訴えていない（写真 2）。

肉眼的所見および X 線像：肉眼的には表面はやや滑沢で赤褐色を呈し、2.3×2cm 大の弾性軟の腫瘍で、ところどころに硬様粟粒大のものを認めたので、X 線撮影を

写真 1

写真 2

大阪労災病院口腔外科（主任：本田光徳）
Department of Oral Surgery, Osaka Rosai Hospital
(Chief: Dr. Mitsunori Honda)

受付 昭和 46 年 11 月 8 日

写真 3

写真 4

写真 5

行った所6個の大小不同の石灰化像を認めた(写真3,4)。

病理学的所見：腫瘍は内皮細胞で囲まれた大小不同の血管腔よりなり、その内腔は赤血球で充され、結石は細胞成分に乏しい結合織にて囲まれている(写真5)。

III 考 察

血管腫は血管組織からなる良性腫瘍で、口腔領域にては口唇、舌、頬粘膜に好発するが、血管腫の中に結石形成がみられるものは文献的考察では、西嶋他(1966)⁸⁾に詳しく述べている。それを参照するとその発生は比較的少なく、最近東他(1970)⁹⁾の調査でも17例にすぎないといっている。

また増山他(1967)⁷⁾は口腔領域で静脈石を伴った血管腫と、結石を認めなかったものとの比較を詳述しているが、それによると昭和39年より昭和41年の3年間で、血管腫のみの症例は62例、結石を有したものは7例との報告中、5例は頬粘膜であった。

なお結石の発生機転には局所成因説と全身的成因説とがあるが、そのいずれかも不明である。

IV む す び

私共は19才の女性にみられた静脈結石を有する頬部血管腫の1例に遭遇し、その処置および経過について報告した。

(本論文の要旨は第16回口腔外科学会総会にて報告した)

文 献

- 1) Parker, L. A. : Phleboliths. OS OM & OP 18:476 1964.
- 2) Smith, F. J. : Massive oral hemangioma with phlebolithiasis. OS OM & OP 21:83 1966.
- 3) Thoma, K. H. and Goldman, H. M. (1960): Oral Pathology ed. 4 Mosby Co, St Louis 1931-1937.
- 4) 浜田他：静脈石を伴う血管腫の1症例。口外誌 14:85 1968.
- 5) 久野他：静脈石を有した口腔底部血管腫の1例。口外誌 15:116 1969.
- 6) 東他：静脈石を有した舌下血管腫の1例とその静脈石の Electron Microprobe X-ray Analyzer による分析所見について。口外誌 16:181 1970.
- 7) 増山他：口腔領域で静脈石を伴った血管腫の症例について。阪大歯学誌 12:279 1967.
- 8) 西嶋他：結石を有する頬部血管腫の1例ならびに文献的考察。口外誌 12:171 1966.
- 9) 尾笹他：稀有なる静脈石を伴う顔面血管腫の2例に就いて。阪大歯学誌 4:1269 1959.
- 10) 拓植他：多数の静脈石を伴った頬部血管腫の1例。口科誌 16:398 1967.